平成30年3月30日
北海道森林管理局

平成29年度野幌自然環境モニタリング調査結果概要
～ 野幌森林公園ではアライグマは広範囲で多数確認 ～

1. 調査項目及び内容

表－1

調査項目	内　容
森林植生	台風被害における天然更新及び植栽木の再生状況を把握。また、野幌森林公園において良好であると考えられる林相を有する天然林（以下、「良好な自然林」とする）の概要を把握する。
菌類	台風被害地、良好な自然林、台風被害を受けなかった森林において出現する木材腐朽菌の子実体（きのこ）を採取・同定し、森林の再生段階を菌類の面から検討を行う。
歩行生甲虫	台風被害地、林縁、林内において歩行性甲虫を捕獲し、得られる種から森林の再生段階を検討する。
野生動物	自動撮影カメラを用いた調査を実施し、森林の更新に影響を及ぼすと考えられるエゾシカ、特定外来種であるアライグマ、その他記録される野生動物から、森林の健全性について評価を行う。

2. 調査結果

1） 森林植生調査

植栽列内・外に定着した植栽木以外の天然木の成長が著しい。植栽木は年々着実に伸長成長をしていて、根張りも広がっており、ササの稈高を抜きつつある。一方でツル類が樹木の生長を抑制している箇所が部分的に出てきた。ツル類をどのように処置するか考えていく必要がある。全体的に再生段階は第2段階である。

植栽地：トドマツ

植栽地：ヤチダモ（植栽木）と列外はチシマザサ群

2） 菌類調査

処理区における重要菌種出現頻度の経年変動をみると、カワラタケやレンガタケの出現頻度が減少傾向にあるなど、天然林区や人工林区の様相に近づきつつある種もあるが、種構成は天然林区や人工林区とは異なっている。倒木などの腐朽の進行、植生回復に伴う根株等の菌類の発生環境の湿潤傾向がみられてきているが、再生段階としては、第1段階と考えられる。

表－2

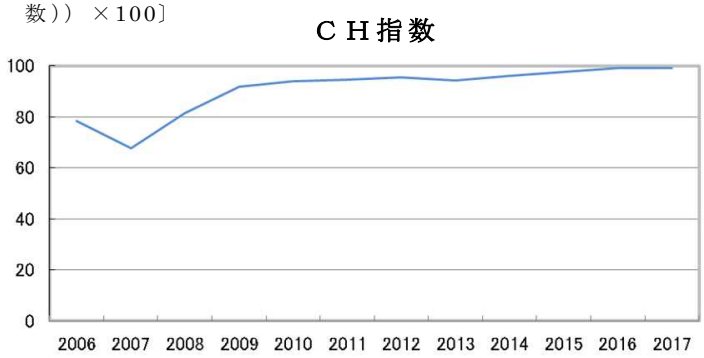
プロット毎の重要菌種出現頻度（2017）

和名	天然林区					トドマツ人工林区					風倒被害処理区				
	37ほ天	38ろ天	49ろ1天	51ろ天	天計	34りトド	46にトド	道2トド	50りトド	トド計	38へ処	38ろ処	41ほ2処	46に処	処計
ウスバシハイタケ			1		1	3	1	1	1	6					
スエヒロタケ						1				1					
カワラタケ											1				1
トドマツガンシュビョウキン						1		1		2					
アラゲカワラタケ															
レンガタケ						1				1		1		1	2
モミサルノコシカケ							3	5	1	9					
サカズキカワラタケ	1		2	1	4	1				1					
キカイガラタケ															
キアシグロタケ															

3） 歩行性甲虫調査

CH 指数が最も低かった 2007 年が台風被害で生じたギャップに非森林性の地表性甲虫が侵入した年で、それ以後 2017 年にかけて、ギャップエリアの群集も周囲の森林の群集組成に近づいてきており、かなり群集構成が回復してきていると判断できる。CH 指数は増加して天然林の組成にかなり近づいたが、記録種数の減少は小休止の状況であり、一進一退しながら森林回復しつつある状況と判断される。総合的にみて、地表性群集の組成は、第3段階に近づいてきている森林回復の第2段階の後半に入ったと考えられる。

図－１　CH 指数（オサムシ-ゴモクムシ個体数比）＝（森林環境を好むオサムシ亜科個体数）/（（森林環境を好むオサムシ亜科個体数）＋（草原環境を好むゴモクムシ亜科のゴモクムシ個体数＋ゴミムシ個体数））×100〕

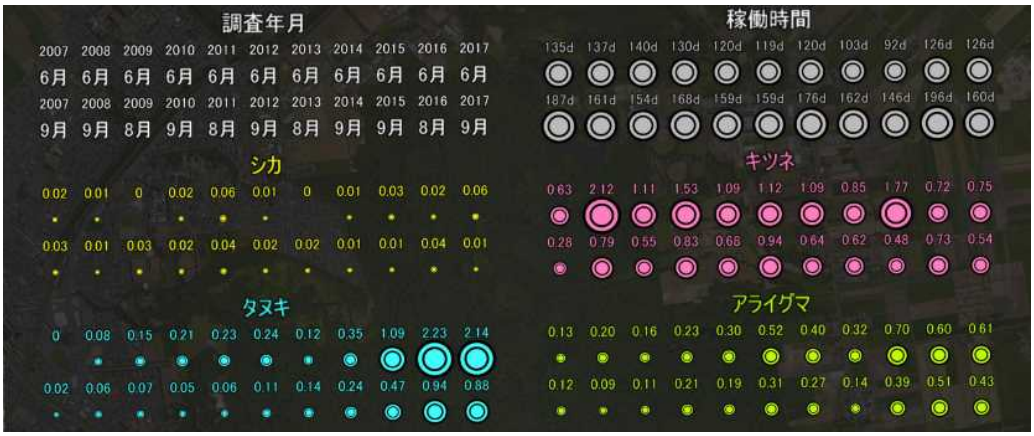


4） 野生動物調査

確認種数と確認種構成については今年度、過年度で大きな違いは見られず、生息するほ乳類相に目立つ変化はない。エゾタヌキは 2014 年以前と比べて顕著な撮影頻度の増加がみられ、生息数が大きく増加していると推測。特定外来種であるアライグマについては今年度も過年度同様、広範囲で多数が確認されており、在来種への影響などを引き続き注視する必要がある。エゾシカは、9 月調査で若干の増加が見られたが、引き続き低い撮影頻度で推移している。しかし、冬季にシカの目撃があることから、調査期間に該当しない冬季に群れがかたまって森林公園内を利用していることも考えられる。

環境省レッドリストで準絶滅危惧種とさているエゾクロテンが今年度も確認された。 野幌森林は、石狩低地帯の西側では本種の生息が確実な数少ない箇所であると考えられ、今後の動向が注目される。

図－２　主な動物の年別撮影頻度



問い合わせ先：北海道森林管理局
石狩地域森林ふれあい推進センター
〒064-0809 札幌市中央区南９条西２３丁目１－１０
TEL 011-533-6741
E-mail:h_ishikari_f@maff.go.jp